

【W2】いつでも、どこでも、だれでも、自由に表現できるヒューマンビートボックスという音楽

【講師】河本 洋一、YUTA

【要旨本文】

私たちの口は言葉を発する発話器官の一部です。日常的にこの口を使って話をしたり歌を歌ったり、ご飯を食べたりしています。ただ、口ができることはこれだけではないのです。この口が「楽器」だと言ったらみなさんはどうお感じになるでしょうか。実は口を使って様々な音を創り出し、時にはこの音に歌声を混ぜながら演奏する人たちがいるのです。

彼らは「ビートボクサー」と呼ばれています。ボクサーと言ってもボクシングの話ではありません。ビートボクサーとはヒューマンビートボックスを演奏する奏者のことです。打楽器は人間が叩いて音を出しますが、1979年にこの音を電氣的に模倣し、様々なリズムのパターンを生み出すことができる「ビートボックス」という機器が誕生しました。

この機器は高価だったのでアメリカの若者たちはヒップホップの音楽の中でこの音を使いたくても、買うことができません。そこで、口でこの音を模倣したのです。これがビートボックスを人間がまねるという文脈で「ヒューマンビートボックス」と呼ばれることになりました。つまり、本物の楽器のコピーのコピーがヒューマンビートボックスというわけです。通常、コピーすると品質は劣化しますが、ヒューマンビートボックスはそうではありませんでした。模倣をする段階から発展し、様々な音楽のジャンルと融合し、そして模倣ではなく人間由来としか言えないような音までを駆使して、どんどんと新しい音楽の表現をひろげていったのです。

今ではヒューマンビートボックスは全世界に広まり、1対1で演奏を競い合う競技（ビートボックス・バトル）は、昨年に続き今年も日本で世界大会が開催されます。まさに、身体から発せられる音を使ってどのような音楽表現ができるかに挑むことは、私たちに改めて音楽における身体の意味を認識させてくれます。

そんな可能性に満ちたヒューマンビートボックスの世界を、札幌のビートボクサーYUTAさんと研究者の河本洋一の対談を交えながら、フロアの皆様にも体験していただきます。

【講師プロフィール】

河本洋一：札幌国際大学教授 専門は音楽表現、音楽科教育、地域振興。日本で初めて科研費でヒューマンビートボックスの研究を始め、独自教材を制作。現在、書籍の刊行準備中

YUTA：札幌を中心に活躍するビートボクサー。北海道チャンピオンだけでなく全国チャンピオンにもなったことがある若手実力派。ビートボックスのイベント仕掛け人として活躍中